

## 授業デザイン FIRST STEP Vol.3 ー小学校図画工作科「安全指導」編ー



## 1 安全指導は何のため？

安全指導は、事故を防ぎ、児童が安心して活動に取り組むために必要なことです。安全指導のポイントをしっかりと確認しましょう。



## 2 安全指導のポイント

## (1) 計画や準備のポイント

まず、事前に用具や活動場所の点検をします。次に、危険を予測し、安全に配慮した場を設定します。児童の動線を想定し、用具を使って活動する際の体の向きを決めるなどして、教師が児童の様子を把握できる場を設定することで、事故の防止につなげます。そして、用具の使い方についての掲示物を準備したり、扱い方についての約束事を決めたりして、児童が安心して活動に取り組むことができるようにしましょう。

[文部科学省「図画工作科で扱う材料や用具」](#)

## (2) 指導のポイント

## ① 児童が危険を予測するための指導

特に刃物の使い方については、言葉だけの説明ではなく、具体的な場面を想定し、教師が使う姿を見せながら指導を行いましょ。その際、誤った使い方を見せながら「どのような危険があるか。」と問い掛けることで、児童は危険を予測し、実感的に理解することができるようになります。接着剤の種類によっては、皮膚などについた場合の危険性を児童が理解できるようにする指導が必要です。

## ② 場を整理する指導

用具を正しく使っていても、場の状況次第で、事故が起こる可能性は高まります。用具を使う前には、 unnecessaryなものを机上や身の回りに置かないように指導を行いましょ。

## ③ 事故を起こさない雰囲気をつくる指導

児童が用具の誤った使い方や扱い方をしている場合には活動を止め、想定される危険について、再度確認をしましょ。学級全体で確認することで、事故に至るまでの流れを全員が具体的に想像できるようになります。このような指導を繰り返し行うことで、用具を扱う際の緊張感を高め、事故を起こさない雰囲気をつくりましょ。

## (3) 管理のポイント

児童が個人で持つ用具には、記名をするように指導し、確認します。カッターナイフや彫刻刀などの刃物は、教師がまとめて保管しましょ。共用の用具には、番号を付けます。番号が付いていると、児童の管理意識が高まり、紛失や返却の忘れを防ぐことができます。使い終わったら、全て返却しているか教師が確認し、決められた場所に保管しましょ。

児童が用具に慣れるためには、使う機会を増やし、指導を繰り返すことが大切です。用具に慣れてきた頃に事故が起こりやすくなると言われています。児童が使った経験のある用具であっても、常に安全に配慮した指導を心掛けましょ。